

No. 1032

セ・パの覇者決まる

—プロ野球ペナントレース—

おおづめを迎えて白熱するプロ野球ペナントレース10月20日優勝まであと1勝と迫った阪神タイガースは、中日球場で中日ドラゴンズと対戦しました。必勝を期すタイガースがエース江夏をたてればAクラスをかけるドラゴンズはこれまたエース星野仙一が先発。1回表タイガースは星野の立上りを攻めて野田、遠井が連続ヒットして一死一、三塁のチャンス。ここで迎えた4番田淵がセンターへ犠牲フライを打ちあげ早くも1点を先取しました。しかし1点を追うドラゴンズは3回裏正岡、高木守、谷沢がヒットをつらねて2点を奪い、試合を逆転しました。4回表に同点に追いつかれたものの、その裏先頭の木俣がレフトへホームランして再度リード、8回裏にもダメ押しの1点を加え結局4、2でドラゴンズが快勝3位を確保しました。一度は優勝から見離されたジャイアンツはタイガースの敗戦を列車の中で知り喜びの中に大阪入り。雨で一日流れた22日、甲子園球場で4万8千の大観衆が見守る中タイガースと対決しました。優勝をかけたどちらも負けられない一戦だけに、タイガースは今シーズンすでに22勝をあげている上田をたてればジャイアンツもエース高橋一三をたてて必勝のかまえ。

ジャイアンツは1回表立上がり、かたくなった上田をとらえ、無死満塁のチャンス、ここで迎えた4番王がライトへ犠牲フライを打ち、まず1点を先取、2回表にも土井、高橋一、末次の連続ヒットで2点を加え、上田をノックアウト、さらに攻撃の手をゆるめぬジャイアンツは、5回まで毎回得点をあげ9：0と試合を一方的にリードしました。これに対し、タイガースは高橋の好投の前に4安打散発におさえられ、無得点9回表も、期待のカーランドが三振にたおれ、ゲームセット。この瞬間ジャイアンツの9連覇が決定しました。一方前期の覇者南海ホークスと後期の覇者阪急ブレーブスが対決するバリーグ・プレーオフは2勝2敗で第五戦を迎え24日西宮球場で行なわれました。試合はブレーブス山田、ホークス山内の好投で0：0のまま最終回を迎えました。9回表ホークスは、スマス、広瀬の連続ホームランで2点を先取して、均衡を破れば、その裏ブレーブスも代打当銀がホームラン、1点差と追いつきました。しかし代打の高井が三振、結局2：1でホークスが勝ち、七年ぶり十二度目の優勝に輝き、V9をかけたジャイアンツと日本シリーズで対決することになりました。バリーグが2シーズン制をとってファンの注目を集め、セリーグは史上まれな混戦レースとなつてかつてないファンを動員した今シーズンのプロ野球ペナントレースもジャイアンツ、ホークスの優勝で幕を閉じました。